

手足口病、ヘルパンギーナが流行しています。

2015.08.03

子ども達の楽しい夏休みが始まりました。今年の夏はとても暑いですね。暑い夏にあまり流行ることのないRSウイルス感染症や溶連菌性咽頭炎が流行しています。全国的には、10年ぶりに手足口病の大流行がみられています。

函館近郊で見ると、手足口病は3週ほど前から流行が始まりました。

手足口病は、口の中や手のひら、足の裏などに水疱ができるウイルス性の病気です。コクサッキーウイルスやエンテロウイルスが原因とされています。出る症状は同じでもウイルスが違えばまた症状が出ることもあるので、去年もやったのにまた今年も出たということは珍しいことではありません。発疹はまれには膝の周りやお尻、体にも出ることがあり、たくさん出ると診断が難しいものです。発疹のほかには、髄膜炎や脳炎、心筋炎などを起こすことがあります。一般的には軽症の病気です。

ヘルパンギーナは同じようなウイルスによって起きる病気です。口の中の水疱と発熱が主な症状です。口の中には多くの口内炎ができるので、よだれを飲みきれなくて口から出てきたり、水分や食事が十分にとれなくて心配になったりすることがよくあります。手足口病と同じように髄膜炎や心筋炎などをごくまれにおこすことが知られていますが、一般的には軽症と考えられています。函館近郊では3週前頃から流行が始まりましたが、過去5年で一番流行が強かった平成22年と比べて6分の1程度と流行の規模はまだ小さいものです。

どちらの病気も、発症してから症状が治ったと思ってもかなり長い間（1か月程度）ウイルスを排泄していることが知られており、保育園や幼稚園、学校をどの程度休まなければいけないかという明確な基準はありません。ですので、発熱がなく、十分食事ができる程度に回復しているのであれば、発疹が残っていても登園は可能と説明しております。

これを使えば治るといふ薬もありませんし、風邪と同じような予防方法しかありませんので、保育園などでいったん流行が始まると、ほとんどの子が罹るまで流行が収まらないことはよく経験することです。